



KYOTO  
COLLEGE OF NURSING

# 2022 年度 授業概要 (3 年次)



学校法人 京都育英館

京都看護大学

## 目次

ケアリングコミュニケーション .....	1
看護リフレクション .....	2
在宅支援論実習 .....	3
高齢者支援論実習 .....	3
母性看護学実習 .....	4
小児看護学実習 .....	4
急性期・周術期看護論実習 .....	5
生活行動回復看護論実習 .....	5
セルフケア支援論実習 .....	6
緩和ケア論実習 .....	6
精神看護学実習 .....	7
課題探求 I .....	8

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
ケアリングコミュニケーション		BNNSS5E10	30110	3前	1(30)	必修
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院/診療所に勤務		
概要	<p><u>ケアリングの理論</u>及び<u>コミュニケーション理論</u>について学び、看護におけるコミュニケーションを<u>ケアリングコミュニケーション</u>として捉えなおす。 次に、臨地実習での自己の看護の振り返りをもとに、自己のケアリングコミュニケーションを開発し、発表を通して深く相互的なコミュニケーション力を修得する。</p>					
到達目標	<p>1)ケアリングとケアリングが求められる背景について説明できる。 2)ケアリングと関連のあるコミュニケーション理論について説明できる。 3)看護の場面を再構成し、看護におけるケアリングコミュニケーションについて考察できる。 4) 臨地実習の経験を振り返り、患者との相互作用について分析し、後期の臨地実習に向けて、自己のケアリングコミュニケーションの方略を説明できる。</p>					
関連科目	看護リフレクション、各実習					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	レポート	50%	1)35% 2)20% 3)15% 4)30%		別途レビューで説明	
	授業参画	50%	1)5% 2)15% 3)20% 4)10%		授業内でフィードバック	
DPとの対応	智をいっしむ力		人をいっしむ力		命をいっしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		○	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		◎	適切な看護実践
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	看護におけるコミュニケーションー心理学モデルの限界			予:p1-p17を読む 復:ケアリングの重要性の理解		1時間
2	ケアリングと関連のあるコミュニケーション理論			予:p18-p34を読む 復:コミュニケーション理論の理解		1時間
3	コミュニケーション理論(対人関係モデル・メタコミュニケーション・アナログ型とデジタル型) 課題①②③			予:p18-p34を読む 復:コミュニケーション理論の理解		1時間
4	コミュニケーション理論(確認・共感)			予:p18-p34を読む 事後課題:ケアリングと関連のあるコミュニケーション理論 課題④		1時間
5	ケア提供者の資質と行動的資質			予:p44-p76を読む 復:資質について考察		1時間
6	ケアリングとはどのようなものか 課題⑤			予:p116-p124を読む 復:ケアリングの効果の理解		1時間
7	効果的な看護のためのコミュニケーションーWiedenbach			予:Wiedenbachについて調べる 復:自己のケアリングコミュニケーションの振り返り		1時間
8	自己のケアリングコミュニケーションの再構成 課題⑥			予・復:自己のケアリングコミュニケーションの振り返り		1時間
9	自己のケアリングコミュニケーションの再構成			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
10	自己のケアリングコミュニケーションの再構成			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
11	看護におけるケアリングコミュニケーションGW			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
12	看護におけるケアリングコミュニケーションGW			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
13	看護におけるケアリングコミュニケーションの開発 課題⑦			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
14	看護におけるケアリングコミュニケーションの開発			予・復:看護におけるケアリングコミュニケーションの開発		1時間
15	まとめ~Montgomery,Wiedenbach,Nightingaleの言葉			予:自己のケアリングコミュニケーションを深める 復:課題提示		1時間
使用テキスト	キャロル・レッツパネン・モンゴメリー 訳)神郡 博他(1995)『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院					
参考図書	<p>①稲岡文昭他訳(2014)『ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学第2版』医学書院。 ②井上智子監訳(2005)『ベナー 看護ケアの臨床知』医学書院。 ③石井邦子訳(1995)『レイニンガー看護論ー文化ケアの多様性と普遍性』医学書院。 ④池田明子訳 Wiedenbach著(2015)『コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵』日本看護協会出版会。</p>					
教員に対する質問方法	メールアドレス:m_inoue@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
看護リフレクション		BNSS5E12	30202	3前	1(30)	必修
担当教員	◎ 鯨坂 由紀		実務歴	有	看護師として病院に3年勤務	
担当教員	中川 晶		実務歴	有	医師として病院・クリニックに22年勤務	
概要	<p>リフレクションとは、体験を系統的に振り返り、その体験を意味づけし、自己の課題を明確化して次の実践につなげる思考過程である。本科目では、実習の体験を意識的に振り返ることを通して、看護の視点から意味づけする看護リフレクション能力の修得を目指す。また、コーチングスキルについて学び、それを活用して他者との対話的なリフレクションを行なっていく。さらに、ナラティブ・アプローチについても学修する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自身の臨地実習体験をリフレクションし、その体験を意味づけることができる</li> <li>自身の臨地実習体験をリフレクションし、後期の臨地実習における看護実践に向けた自己の課題と対応策を述べるができる</li> <li>対話的リフレクションを行なうことができる</li> <li>ナラティブ・アプローチの要点を説明することができる</li> </ol>					
関連科目	ケアリングコミュニケーション					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	定期試験	50%	到達目標1、2:50%		定期試験後のレビューで説明	
	事前・事後課題、授業参画	50%	到達目標1:15% 到達目標2:15% 到達目標3:15% 到達目標4:5%		コメントを記述し返却もしくは授業時に説明	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス リフレクションの理論的背景①			【予習】シラバスを読む 【復習】講義内容をまとめる		1時間
2	リフレクションの理論的背景②			【予習】講義資料を読む 【復習】理論を整理する		1時間
3	リフレクションと看護学教育			【予習】講義資料を読む 【復習】講義内容をまとめる		1時間
4	リフレクション①:看護実践場面の抽出			【予習】振り返りたい体験を抽出しリフレクティブノートに記述する 【復習】講義内容をまとめる。授業で提示された課題を行なう		1時間
5	リフレクションの方法①:リフレクティブサイクル(Gibbs)			【予習】講義資料を読む 【復習】講義内容をまとめる		1時間
6	リフレクション②:分析・評価・統合・行動計画			【予習・復習】リフレクションを進めリフレクティブノートに記述する		1時間
7	リフレクション③:分析・評価・統合・行動計画			【予習・復習】リフレクションを進めリフレクティブノートに記述する		1時間
8	リフレクションの方法②:スキル(Atkins)、コーチングスキル			【予習】講義資料を読む 【復習】講義内容をまとめる。授業で提示された課題を行なう		1時間
9	対話的リフレクション①:個人のリフレクション内容を他者と共有、対話する			【予習】対話的リフレクションに向け自己のリフレクション内容を整理する 【復習】対話的リフレクションで得た内容をリフレクティブノートに追記し整理する		1時間
10	対話的リフレクション②:個人のリフレクション内容を他者と共有、対話する			【予習】対話的リフレクションに向け自己のリフレクション内容を整理する 【復習】対話的リフレクションで得た内容をリフレクティブノートに追記し整理する		1時間
11	リフレクション④/対話的リフレクション③:体験の意味づけと課題の明確化			【予習】これまでのリフレクションのプロセスから体験の意味と自己の課題についてリフレクティブノートに記述する 【復習】対話的リフレクションで得た内容をリフレクティブノートに追記し整理する		1時間
12	効果的な臨地実習カンファレンスの進め方:カンファレンスとは何か、コーチングスキルの活用とリフレクションとの関連の視点から学修する			【予習】臨地実習カンファレンスで困ったことを抽出する 【復習】自己の課題を整理する		1時間
13	まとめ			【予習】講義資料を読む 【復習】授業で提示された課題を行なう		1時間
14	ナラティブ・アプローチ①			【予習】講義資料を読む 【復習】講義内容をまとめる		1時間
15	ナラティブ・アプローチ②			【予習】講義資料を読む 【復習】講義内容をまとめる。 授業で提示された課題を行なう		1時間

使用 テキスト	1. ロイノートスクール
参考図書	1. 田村由美他(2015):看護の教育・実践にいかすリフレクション, 南江堂. 2. 佐藤学他訳(2007):専門家の知恵 反省的实践家は行為しながら考える, ゆみる出版. その他は講義に適宜紹介する
教員に対する 質問方法	メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
在宅支援論実習	BNNSS5P43	39903	3通	2(30)	必修	
担当教員	◎和田恵美子	実務歴	有	看護師として病院/訪問看護ステーションに14年勤務		
担当教員	井上貴子	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
概要	在宅で療養する全ての年齢層の人々と家族の意思決定を尊重し、多様性と個別性を重視した看護の機能と役割を学ぶ。地域包括ケアシステムについては、地域で暮らす高齢者が希望する生活を自立(自律)して送れるよう、福祉・保健・医療の専門職チームで行われる総合的かつ継続的な支援体制を学ぶ。					
到達目標	1.療養している人とその家族を知り、必要な支援方法を考えることができる。 2.受け持ち療養者の情報収集、アセスメントから、看護課題を統合し、在宅看護の実際と看護の必要性を理解できる。 3.地域包括ケアシステムにおいて、在宅看護の専門性と役割を理解できる。 4.自己の実習姿勢を振り返り、在宅看護に必要な態度を身につけることができる。 5.事前学習に基づき、積極的な学習姿勢を示すことができる。 6.グループディスカッションを通して、自分の意見を述べ、他者の意見を聞くことができる。					
関連科目	地域生活・在宅支援論、在宅支援論演習					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	実習記録	60%	到達目標1:15%		実習時に適宜(中間評価、最終評価:面談時)に説明	
			到達目標2:15%			
			到達目標3:15%			
			到達目標4:5%			
			到達目標5:5%			
レポート	20%	到達目標1:5%		専門職とのカンファレンス後もしくは最終評価:面談時に説明		
		到達目標2:5%				
		到達目標3:5%				
		到達目標4:5%				
実習への取り組み	20%	到達目標4:5%		実習時に適宜(中間評価、最終評価:面談時)に説明		
		到達目標5:5%				
		到達目標6:10%				
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎
使用テキスト	①秋山正子、他『系統別看護講座 統合分野 在宅看護論』2021 医学書院 ②島内節、他『在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方』2020 医学と看護社 ③鎌田智広、他『訪問看護接遇マナーハンドブック』2019 ラグーナ出版					
参考図書	河野あゆみ『強みと弱みからみた 在宅看護過程+総合的機能関連図』2019 医学書院 正野逸子『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 2021 メチカルフレンド社					
教員に対する質問方法	メールアドレス:e_wada@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認 非常勤:連絡可能なメールアドレスor教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
高齢者支援論実習	BNNSS5P44	39904	3通	3(135)	必修
担当教員	◎ 前原 なおみ	実務歴	有	看護師として病院/訪問看護ステーションに12年勤務	
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院/診療所に16年勤務	
概要	病院実習では、高齢者の健康状態や症状にあわせて、 <b>生活行動レベルを用いて看護過程</b> を展開する。 施設実習では、認知症や嚥下障害など複雑な健康問題を持つ高齢者を対象に、生活者としての全体像から、看護と介護の協働によって <b>QOLを高める看護</b> を展開する。 これらの過程を通して、高齢者総合機能評価の観点から発達課題、加齢による諸機能の変化、健康障害、生活機能、および心理社会面を統合してとらえ、 <b>高齢者の特性を踏まえた看護過程を展開する能力を養う</b> と共に、 <b>多職種連携における看護師の役割について理解</b> する。				
到達目標					

成績評価	実習要綱参照					
学修内容						
DPとの 対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
母性看護学実習		BNNSS5P45	39905	3通	2(90)	必修
担当教員	林 里沙子	実務歴	有	助産師として病院及び診療所に6年間勤務		
担当教員	大庭 かおり	実務歴	有			
概要	<p>マタニティサイクルにある女性および新生児とその家族の特徴を身体・心理・社会的側面から理解し、ウェルネスの視点でアセスメントを行い、必要な看護を実践できる能力を養う。</p> <p>具体的には、褥婦と新生児を一組として受け持ち、健康上の課題や母子関係の成立状況を踏まえて看護過程を展開する。また、妊娠期・分娩期の看護に参加したり、新生児集中治療室での看護や各種健康教育を見学したりすることを通して、周産期にある様々な対象と家族を支援するための具体的方法について学ぶ。</p>					
到達目標	実習要綱参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
小児看護学実習		BNNSS5P46	BNNSS5P46	3通	2(90)	必修
担当教員	山本 典孝	実務歴	有	看護師として病院に16年、診療所に1年勤務		
担当教員	堀井 理司	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
概要	<p>臨床現場のダイナミクスを体験しながら、対象(患児及びその家族)の健康上の問題を総合的にとらえ、対象に適した看護活動の実践について学ぶ。具体的には、子どもとその家族と援助的関係をつちかひ、子どもの成長発達、疾病や障がい、QOL、個性などを統合的に理解してアセスメントし、子どもと家族を尊重しつつその子どもに合った支援を創出し実践を試みる。平行して入院中の生活援助と看護に必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。</p>					
到達目標	実習要綱参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎



授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
急性期・周術期看護論実習		BNNSS5P47	39907	3通	2(90)	必修
担当教員	◎田村 葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
担当教員	田口 豊恵	実務歴	有	看護師として病院に13年勤務		
概要	手術療法を受ける患者(及び家族)の健康上の課題を全人的に捉え、 <b>手術前・手術中・手術後の特徴を理解</b> する。また、 <b>科学的根拠に基づいた看護計画</b> を立案し、安全・安楽・自立・自律をふまえた <b>看護が実践できる</b> 。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.周術期患者を看護するために必要な知識を獲得できる。</li> <li>2.周術期患者の健康上の課題を全人的に捉えることができる。</li> <li>3.周術期患者の経過に応じた、科学的根拠に基づいた看護計画を立案し、安全・安楽・自立・自律をふまえた看護実践能力を身につけることができる。</li> <li>4.周術期患者の状態に応じたケアリングやコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>5.看護専門職者として、周術期患者の命と尊厳を尊重する態度を身につけることができる。</li> <li>6.看護専門職者として、自己研鑽することができる。</li> </ol>					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの 評価		評価に対するフィードバック方法	
	実習の取り組み 状況と実習記録	100	到達目標1・・・36% 到達目標2・・・12% 到達目標3・・・24% 到達目標4・・・10% 到達目標5・・・8% 到達目標6・・・10%		実習中および実習後の面談	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		取組 時間
実習要項参照						
使用 テキスト	1)「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」医学書院 2)急性期・周術期看護論、クリティカルケア論に準ずる。					
参考図書						

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動回復看護論実習		BNNSS5P48	399008	3通	2(90)	必修
担当教員	◎中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	岡本 杏華	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務		
概要	回復リハビリテーション期にある患者および家族の特徴を理解し、日常生活行動の自立と社会復帰やQOL向上のための看護過程の展開の実際について学ぶ。また、退院後の生活に向けた多職種連携や社会資源の活用方法について理解し、回復リハビリテーション期にある患者の経過に応じた看護実践能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.回復リハビリテーション期にある患者を看護するために必要な知識を獲得できる</li> <li>2.回復リハビリテーション期にある患者の健康上の課題を全人的に捉えることができる</li> <li>3.回復リハビリテーション期の患者の経過に応じた、日常生活行動の自立と社会復帰やQOL向上のための、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につけることができる</li> <li>4.回復リハビリテーション期の患者に応じたケアリングやコミュニケーション能力を身につけることができる</li> <li>5.看護専門職者として、回復リハビリテーション期の患者の命と尊厳を尊重する態度を身につけることができる</li> </ol>					
成績評価	種別	割合(%)	到達目標に対するの 評価基準等			
	実習	100	到達目標1:15% 到達目標2:20% 到達目標3:30% 到達目標4:15% 到達目標5:20%			

DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎
学修内容	実習要綱参照					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
セルフケア支援論実習		BNNSS5P49	39909	3通	2(90)	必修
担当教員	宇多 雅	実務歴	有	看護師として病院に17年勤務		
担当教員	吉田 えり	実務歴				
概要	<p><b>慢性疾患をもって生きる患者の健康上の諸問題</b>を総合的に把握し、<b>療養行動維持、生活の再構築、QOL維持・向上</b>に向けて看護の実際を学ぶ。具体的には、患者との関わりを通して、慢性疾患患者や家族の状況をアセスメントし看護過程を実践する。慢性疾患をもって生きる患者・家族の生活背景や<b>セルフケア能力</b>に焦点をおき、<b>健康教育の必要性や援助方法</b>について学ぶ。さらに、患者・家族が健康障害に伴う生活上の制約を受容し、療養行動を維持していくための看護援助を経験し看護技術を修得する。</p>					
到達目標	実習要綱参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
緩和ケア論実習		BNNSS6P50	39910	3後	1(45)	必修
担当教員	宇多 雅	実務歴	有	看護師として病院に17年勤務		
担当教員	吉田 えり	実務歴	有			
担当教員	門田 典子	実務歴	有			
概要	<p>がんとともに生きる人とのかかわりを通して、全人的な痛みについて包括的に考え、患者・家族のケア・多職種によるチーム医療の重要性を看護の視点から学ぶ。具体的には、患者・家族の希望を尊重しながら苦痛緩和に向けて必要な看護援助を看護師の援助に同伴し、学生は患者・家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな状況のアセスメントを行う。その上で、実施される援助の意味や工夫を学ぶ。</p>					
到達目標	実習要綱参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
精神看護学実習		BNSS5P51	39911	3通	2(90)	必修
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
担当教員	高橋 康子	実務歴	有	看護師として病院／診療所／保健センターで4年勤務		
概要	<p>心を病む人とのかかわりを通して、精神の健康および精神の障がいを理解し、対象の生活の場に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。具体的には心を病む人とのかかわりを通してその全体像を理解し、適切な支援的関係を築くなかで回復への<b>看護実践</b>について学ぶ。</p> <p>さらにその家族や取り巻く社会の状況についての理解を試みるとともに、精神科領域に関わる多様な組織や他職種との<b>連携</b>についても学び、包括的なケア体制づくりの重要性について理解する。</p>					
到達目標	<p>1. 精神に障がいをもつ人との関りを通して、対人関係のあり方について説明することができる。</p> <p>2. 精神の健康状態が心と身体に与える影響を理解した上で、その人の生活に及ぼす影響について説明することができる。</p> <p>3. 精神に障害を持つ人を取り巻く環境において、看護の果たす役割について説明することができる。</p>					
関連科目	精神看護学 精神看護学演習 課題探求実習 課題探求Ⅱ					
成績 評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	実習	100%	到達目標1:30%		実習最終日に説明する	
			到達目標2:30%			
			到達目標3:40%			
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		取組 時間
実習要項参照						
使用 テキスト	①:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の基礎 ②:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の展開					
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令					
教員に対する 質問方法	<p>三林聖司 メールアドレス:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認</p> <p>高橋康子 メールアドレス:y_takahashi@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認</p>					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
課題探求 I		BNNRS7L01	40101	3後	1 (15)	必修
担当教員	菅田 勝也	実務歴				
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院／診療所に16年勤務		
概要	看護における <b>研究の必要性とその進め方</b> について理解を深めるとともに、 <b>研究テーマに取り組むための基礎能力</b> を養う。					
到達目標	1. 看護研究の意義とその必要性について説明できる。 2. クリティークの視点について説明できる。 3. 看護研究の方法と進め方について説明できる。 4. 研究計画書の意義について説明できる。 5. 研究倫理の重要性と倫理的配慮について説明できる。					
関連科目	3年次 実習科目全て					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対しての評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	100%	到達目標1～5:各20%	レポートにコメントを記載して返却する		
DPとの対応	智をいっくしむ力		人をいっくしむ力		命をいっくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習内容(授業毎に確認)・復習内容		取組時間
1	看護における研究の意義と課題、看護専門職として研究を行う 責務			【予習】:自分の興味・関心のあるテーマについて考え、まとめておく 【復習】:テーマの動機・目的について次講に持参する		1時間
2	研究疑問の絞り込みと文献検索の仕方			【予習】:テーマに関する文献を1本印刷して持参する 【復習】:研究疑問について整理し、次講に持参する		予習2時間 復習2時間
3	研究デザインと方法①:量的研究と進め方			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:量的研究について、教科書や授業資料を読み復習する		予習2時間 復習2時間
4	研究デザインと方法②:質的研究と進め方			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:質的研究について、教科書や授業資料を読み復習する		予習2時間 復習2時間
5	文献検討とクリティーク:クリティークポイントに沿って			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:文献1本をクリティークし、指定日に提出する		予習2時間 復習2時間
6	研究計画書の意義と構成			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:時間内に指示する		予習2時間 復習2時間
7	研究計画書例を用いた学修			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:時間内に指示する		予習2時間 復習2時間
8	研究倫理と倫理的配慮:研究倫理申請書の書き方			【予習】:事前に指示された内容を持参する 【復習】:時間内に指示する		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	坂下玲子 看護研究 医学書院 2016年					
参考図書	講義中に紹介する					
教員に対する質問方法	メールアドレス:井上 深幸 m.inoue@kyotokango.ac.jp オフィスマワー 在校生HPを確認					